



## すでに日本は存立危機事態？！

まず確認ですが、「内容は間違っていない」との言説が目につく例の高市首相（以下敬称略）の発言は、内容が間違っています。「存立危機事態」の定義をちゃんと読めば、彼女が描いた「台湾有事」がそれに当たらないことは、中学生どころかあの安倍元首相にすらわかる（事実、彼はこの問題で台湾を持ち出しませんでした）くらい明白ですが、念のため国際法の観点も踏まえた明快な解説をお望みなら、12/4の朝日新聞、元内閣法制局長官・宮崎 礼壹氏のインタビューを是非ご一読ください。

さて、高市はこの妄言の撤回を断固拒否する一方、それが従来の政府見解を完全に維持していると閣議決定。それって「日本政府は今まで曖昧な表現で濁してきたけど、実は首相が言った通り、台湾に何かあれば自衛隊を送る気満々だぜ」ってこと？！ そう解釈できるので中国は当然激怒、制裁措置は「クレヨンしんちゃん」の追放にとどまらず、自衛隊機へのレーダー照射なんてキナ臭いことになってきました。

ただ高市にすれば、日中関係の悪化はありがたくも、軍事費を国家予算の2割（=GDPの3.5%）にあたる21兆円にまで引き上げて、トランプと米・兵器メーカーに貢ぐ狂気の沙汰を正当化してくれる。そのほか彼女が目指すのは、殺傷可能な兵器の輸出解禁、非核三原則の見直し、「一佐→大佐」など自衛隊の階級名を旧日本軍のものに戻す……と、平和主義を捨てて米軍とともに戦う国へまっしぐら！の感を否めません。

むろん、高市政権の是非をこの軍拡路線一点で判断するのは不公正でしょう。例えば、アベノミクスを継承して円安・株高・物価高・格差拡大を推し進める経済政策は高く評価…できるわけがありませんが、そのかわり参政党同様デマや誇張を駆使した外国人・LGBTQ・女性などマイノリティの差別・排除は…あらら、ほぼ鬼畜の所業ですね、でも国民が重ねてNOを突きつけた「政治と金」問題を「そんなことより」と一蹴して根拠ゼロの議員定数削減に取り組む姿勢は…ふざけるな！！

こんな高市政権を7割あまりの国民が支持している状況こそが、「どう考えても」日本の存立危機事態です！！！  
(梅丘1丁目・真藤 一彦)

### 自民・維新：「政治と金問題を棚上げし、議員定数削減」 理由も目的も示さず自動削減法案も強行！ 民意無視、少数政党排除のファツショ、断じて許してはならない



自民と維新がこの臨時国会で成立を狙っている衆院議員定数削減法案の要綱は、比例代表20、小選挙区25を削減し、国会定数を465から420まで一気に減らすということです。

要綱には、一般的に法律に盛り込まれる「目的」規定がなく、何のために定数を削減するのか、選挙権を有する国民に何ら説明せず、「削減ありき」の内容です。さらに法案提出の理由は、法案の趣旨の措置を「定める必要がある」からとしか書かれていません。削減の理由を示さず、「削減する必要があるから削減する」というもので、法の理論として破綻しています。今回の削減枠は1日、高市首相と維新吉村代表が合意、定数削減は、維新が連立入りの絶対条件だったものです。自民維新は17日までの会期中の成立を狙っています。

先に議案となっている企業・団体献金の禁止・規則など「政治とカネ」問題を後回しにして定数削減を先行させれば、国民の反発が広がるのは必至です。

◇各紙社説で定数削減法案「横暴許すな」と主張

◎読売新聞 「こんな乱暴な法案を、政権を担っている与党が提出するとは見識を疑いたくなる」と指摘、1年以内に削減法案の結論が出ない場合は、自動的に削減する条項が盛り込まれていることも問題だ。「定数削減して国民の代表を減らすことがなぜ、改革と言えるのか」と強調しています

◎毎日新聞 「必要性や根拠示さないまま、一方的に主張を押し付けようとする。でたらめ以外の何物でもない」と厳しく批判。「今回の案には自民党が抵抗する「政治とカネ」の改革から論点をすり替える思惑がある」と指摘し、「与党が『身を切り改革』をうたうのであれば、より痛みを伴う企業・団体献金規定強化や政党交付金の減額などに踏み込む方が理にかなっている」と主張。

(代田5丁目・小澤 満吉)

## 第71回子どもを守る文化会議に参加して

12月6日を開かれました。第1回は1953年です。基調講演は、埼玉大学名誉教授の暉峻 淑子（てるおか いつこ）さんです。1989年に出版された「豊かさとは何か」は今でも読まれ続けています。「民主主義が壊れる一対話する社会へ」と題して90分立って話されました！（1928年生まれです）

1989年、子どもの権利条約が国連で採択され、日本政府は158番目の締約国として1994年に批准しました。日本政府及び市民サイドからの報告書に対して、子どもの権利委員会から出された勧告書は、豊かな国の中では、競争教育が子どもに必要な遊びや文化の享受を妨げ、子どもに不幸をもたらしているという指摘は胸に刺さる。子どもは遊びのなかで自分の主人公になり自立の基礎となる（松田道雄氏）、学校での宿題の多さや全数テストに意味はない。

経済学の立場から見ても、それが子どもだけでなく大人の生活を生き辛くし、経済や学術の不振をもたらし、無差別殺人（秋葉原事件を例にあげられ、誰からも認められず、排除されてきて、社会に対する承認欲求としての行動）や自死さえ招く要因のひとつとなっている。

新自由主義がもたらす非人間的なタイプやコスパの競争や短期的成果主義は、個人であり社会人であり自然人である私たちの、人権と平和を脅かしている。戦争と競争は、勝ち負けを強いるという意味で似ている。子どもは対話で育つ、親子で日常的な対話をしていますか。子どもの権利を社会に根付かせるために、失われていく対話や応答性を回復し、人間の本性である承認欲求を受け止めて、相互承認の社会について意識の重要性に目覚めたい。

ご自分の子育てのお話しやドイツでのお話しもされました。最後に、自分たちが学び判断していく力をつけると。

休憩を挟んで、対話提供として、対話的研究会の田倉京子さん、都留文科大学院の方、そして高校生平和ゼミナールからの特別発言、質疑応答、アピール案採択、絵本「サンタクロースってほんとにいるの？」の朗読がありました。

参加者は会場81名・オンライン15名でした。

日々の生活でも、国どうしでも、対話はとても大切です。意見が違う人とも対話していきたいと思います。

（代田4丁目・萱野 幸子）



### 代田・九条の会からのお知らせ

＊＊ 新年号では、みなさんの新年にあたっての抱負を掲載します。  
事務局あてにどしどしお寄せください。

字数：200字程度まで。締切：1月10日

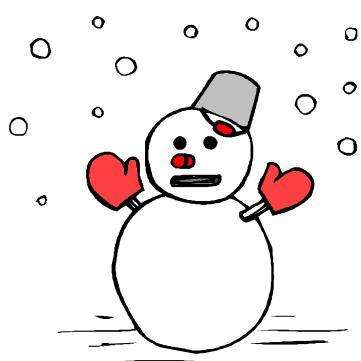
＊＊ 新年会を開催します

日時：1月11日（日）13時から

場所：梅丘1丁目・ああ星董派

会費：2000円程度

杯を交わし、すしなど食べながら、政治談議やカラオケに花を咲かせましょう。お気軽にご参加ください。



～私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人々に広めてください。 +++